

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報										
事務事業名	093 Society 5.0社会実装トライアル支援事業									
戦略プラン					担当部課 係名	政策イノベーション部科学技術振興課 イノベーション推進係				
総合戦略	I	1	(1)	科学技術の振興によるまちづくり	新規・継続	継続				
					事業分類	任意的事務				
予算科目	01-020108-16 科学技術振興に要する経費				市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解				
要求区分	事業期間 平成29年度～					<input type="checkbox"/> 企画・立案、計画				
個別計画	第5期科学技術基本計画、科学技術振興指針(第2期)					<input type="checkbox"/> 実行				
根拠法令					事業体制	職員のみ				
					市長公約	65				
概要										
事業の目的					事業の概要					
<p>「Society 5.0」に係る社会実装に向けたトライアル（＝実証実験）を公募し、民間の創意工夫を生かした優れたトライアルを支援する。当該トライアルの実施主体と地域企業等との連携及び当該トライアルの核となる革新的な技術やアイデアの実用化を推進することにより、市民生活の向上及び地域経済の活性化さらには先進的な取組に挑戦するまちとしてのプレゼンスを確立する。</p>					<p>IoTやAIなどの最先端技術による先進的なフィールド実験を全国から公募し、実験場の提供やモニターの確保、費用補助等の支援を行う。</p>					
評価										
事業計画					活動実績					
5～6月 事業周知 5～6月 企画提案の公募 7月 前年度の成果発表会 7月 1次審査 8月 最終審査 9～3月 トライアル支援・実施					5～6月 事業周知 5～6月 企画提案の公募（応募：23件） 7月 前年度の成果発表（Tsukuba Startup Night 2019） 7月 1次審査 8月 最終審査 10～3月 トライアル支援・実施					
成果					課題					
全国各地への事業周知により、昨年を上回る提案23件のもと5件を採択、1件辞退により、4件を支援した。また、昨年度の実証実験主体者に成果発表の場を用意し、企業等とのマッチングの機会を提供した。さらに、昨年に引き続き、最終審査にてインターネット投票を実施、新たに顔認証技術を導入し、市民が最先端技術を体験できる機会を提供した。					実証実験の期間が最長で半年と短いことや、支援事業の成果を社会実装に繋げること、また地域課題の解決や市民生活の向上に結びつけていくことへの検討が必要である。					
改善目標（R02年度にむけて）										
地域課題解決型の提案採択方式や、実施期間の拡張について検討していく。										
指標の推移										
1	指標名	フィールド実験の実施件数					(件)		活動指標	
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度		
	目標値	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0	5.0	5.0		
	実績	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0	4.0	0.0		
	指標の概要	「Society 5.0（超スマート社会）」の実現を目指したフィールド実験の実施件数								
2	指標名						()			
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度		
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

	指標の概要							
3	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移						
項目			平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円)	0	0	0	0
	県支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	その他	(千円)	0	1,619	0	0
	一般財源	(千円)	5,273	2,526	0	0
事業費計		(千円)	5,273	4,145	0	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	0.80	0.70		
		時間外勤務 (時間)	200.00	151.18		
	臨時職員等	(有無)	有	無		
人件費		(千円)	6,143	5,121		
事業コスト		(千円)	11,416	9,266		

R02年度当初積算根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査委員謝礼 180千円 ・ チラシ、ポスター印刷 61千円 ・ 審査会運営委託 385千円 ・ 採択案件負担金 5,000千円
-------------	---

予算の方向性	理由
維持	

方向性		
市民ニーズ	5	十分に高く、今後も増加が見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	3	他の事業に優先して進める必要がある。
事業の優先度はどうか		

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報								
事務事業名	096 国際科学技術都市「つくば」の推進事業							
戦略プラン					担当部課 係名	政策イノベーション部科学技術振興課 科学の街推進係		
総合戦略	I	1	(2)	研究機関等の集積をいかしたイノベーション	新規・継続	継続		
					事業分類	任意的事務		
予算科目	01-020108-19 科学の街つくば推進に要する経費				市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解		
要求区分	事業期間					<input type="checkbox"/> 企画・立案、計画		
個別計画	つくば市科学技術振興指針					<input type="checkbox"/> 実行		
根拠法令					事業体制	職員のみ		
					市長公約			
概要								
事業の目的				事業の概要				
市内の大学・研究機関等の連携の強化を図ることにより、その集積効果を最大限に高め、イノベーションを創出し、社会的課題の解決や産業の国際競争力の強化等に貢献する。				<ul style="list-style-type: none"> G7のレガシー継承事業として、科学技術分野への女性の参画拡大や女性人材育成のための事業を実施する。 ハイレベルフォーラム等の国際会議への参加などを通じてつくばの国際的な認知度向上を図るとともに、国外の都市や研究者との連携・交流を深める。 海外からの視察対応や異業種・異分野間の交流機会を創出する。 				
評価								
事業計画				活動実績				
6月～3月 つくばで輝く女性研究者等、特徴的な研究者を常陽リビングで掲載（10回）				6月～3月 つくばで輝く研究者を常陽リビングで掲載（10回）				
7月～8月 リケジョ合宿・リケジョシンポジウム				7月～8月 リケジョ合宿・リケジョシンポジウム				
10月 筑波会議（市主催セッションの実施）				10月 筑波会議（市主催セッションの実施）				
ハイレベルフォーラム参加				ハイレベルフォーラム参加				
グルノーブル都市共同体と科学技術分野の連携協定締結				11月 ボーフム市と科学技術や科学技術分野の連携協定締結				
ボーフム市と科学技術や科学技術分野の連携協定締結				通年 海外企業、政府関係者の視察受け入れ（7月：香港大学）				
通年 海外企業、政府関係者の視察受け入れ								
成果				課題				
常陽リビングやリケジョシンポジウムで研究者の研究内容や日常生活を紹介することで、研究者に対する親近感の醸成やキャリアイメージを市民にすることができた。ボーフム市と連携合意書を締結したほか、グルノーブル市及びグルノーブル都市共同体との連携協定の締結に向けた協議が前進したことで、海外とのネットワーク構築が進んだ。				研究者の活躍や次世代育成のさらなる取組が必要。ボーフム市との連携事業の具体化が必要。				
改善目標（R02年度にむけて）								
女性研究者の活躍や次世代の女性研究者育成のさらなる取組のため筑波大学・茨城県との連携を強化する。筑波大学の協力を得ながらボーフム市との連携事業を具体化するための話し合いを進める。								
指標の推移								
1	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
2	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

	指標の概要							
3	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移							
項目			平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)	
財源内訳	国庫支出金	(千円)	0	0	0	0	
	県支出金	(千円)	0	0	0	0	
	地方債	(千円)	0	0	0	0	
	その他	(千円)	0	0	0	0	
	一般財源	(千円)	2,342	4,930	3,160	0	
事業費計		(千円)	2,342	4,930	3,160	0	
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	1.00	1.00			
		時間外勤務 (時間)	260.32	265.55			
	臨時職員等	(有無)	無	無			
人件費		(千円)	7,704	7,437			
事業コスト		(千円)	10,046	12,367			

R02年度当初積算根拠	③国際科学技術都市「つくば」の推進事業 3,160千円 国際科学技術都市「つくば」の存在を国外にPRすることで、世界からつくばへの注目度を高めるとともに、投資や進出を促進させ、科学技術の振興、イノベーションの促進及び地域の活性化に繋げる。						
	積算根拠： ・ハイレベルフォーラム：特別旅費1,501千円、パートナー都市来日時昼食代165千円、保険料26千円、wifiルーター37千円 ・理工系女子等応援事業：チラシ69千円、研究者紹介ポスター27千円、広告記事掲載770千円 ・理工系女子シンポジウム：500千円 ・市長表敬訪問者対応：手土産代60千円 ・視察対応：飲み物代5千円						

予算の方向性	理由	
維持		

方向性		
市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	3	やや遅れたが、今年度の実施計画を達成した。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		

	指標の概要							
3	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目			平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円)	0	0	0	0
	県支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	その他	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	12,677	10,025	9,455	0
事業費計		(千円)	12,677	10,025	9,455	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	0.50	1.00		
		時間外勤務 (時間)	125.00	215.97		
	臨時職員等	(有無)	無	無		
人件費		(千円)	3,840	7,315		
事業コスト		(千円)	16,517	17,340		

R02年度当初積算根拠

- ・旅費 143千円
- ・消耗品 98千円
- ・飲み物代 10千円
- ・TGI負担金及び会費 9,100千円
- ・藻類産業創成コンソーシアム負担金 100千円
- ・講習会受講料 4千円

予算の方向性	理由	TGI負担金の予算を1,000千円縮小したため
縮小		

方向性

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	3	法令等により、市の実施が定められている。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報										
事務事業名	094 市内大学・研究機関等との連携事業									
戦略プラン	IV	2	1	科学技術の振興	担当部課 係名	政策イノベーション部科学技術振興課 科学の街推進係				
総合戦略					新規・継続	継続				
					事業分類	任意的事務				
予算科目	01-020108-19 科学の街つくば推進に要する経費				市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解				
要求区分	事業期間					<input type="checkbox"/> 企画・立案、計画				
個別計画	つくば市科学技術振興指針					<input type="checkbox"/> 実行				
根拠法令						<input type="checkbox"/> 評価・検証				
					事業体制	職員のみ				
					市長公約					
概要										
事業の目的					事業の概要					
<p>筑波研究学園都市の一層の発展に向けて機能強化を図る。研究機関等との連携を戦略的に進めることにより、技術成果・実証や社会的課題の解決に専門的知見を活用した行政体制の構築、防災体制の強化等に資する。</p>					<p>・市内各大学・研究機関のそれぞれの特徴を生かしながら、基本協定の締結や連携事業を推進する。 ※行政改革アクションプラン「70 企業・大学・研究機関等との協働の推進」該当事業</p>					
評価										
事業計画					活動実績					
<ul style="list-style-type: none"> アウトリーチ活動への支援等を通じた連携事業の実施や研究支援の実施 新規で基本協定を締結 冊子や映像等、各種広報媒体を作成・活用し、情報発信 科学の街つくばを発信するためのコンテンツ作成 					<p>通年 筑協事務局従事（1名/週2日）、研究機関アウトリーチ活動広報支援、サイエンスカフェ、JAXAや国土地理院との基本協定締結に向けた協議</p> <p>1回/月で農研サイエンスカフェの支援</p> <p>4月 防災連絡網作成</p> <p>6月 B-DASH共同研究体協定締結</p> <p>7月 B-DASH実証実験 ～12月</p> <p>10月 防災連絡網を活用した台風被害状況把握</p> <p>3月 新型コロナウイルス情報共有</p>					
成果					課題					
<p>市役所での紹介のパネル展示や市内小中学校への刊行物の配布協力などを通じて、市民に研究内容を広く周知するとともに、研究機関との協力関係を強化することができた。産総研、民間事業者との下水道不明水対策検証において、年間を通じて実証実験を支援しつつ、他地域の情報を把握し先進的な社会課題解決手法を市内で試すことができた。</p>					<p>市内大学・研究機関等との連携の更なる強化と、つくばの科学技術の魅力を集結し、効果的に発信する。</p>					
改善目標（R02年度にむけて）										
協定に伴う新たな事業の実施や科学教育推進事業などを通し、市内大学・研究機関のネットワークを広げるとともに、市のポータルサイトに情報を集約し発信する。										
指標の推移										
1	指標名	新規協定締結数					(件)		活動指標	
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度		
	目標値	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
	実績	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0		
	指標の概要									
2	指標名	連携事業数					(件)		活動指標	
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度		
	目標値	0.0	0.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0		
	実績	0.0	0.0	16.0	17.0	19.0	31.0	0.0		
	指標の概要									

	指標の概要	※行政改革アクションプラン「70 企業・大学・研究機関等との協働の推進」該当指標						
3	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移							
項目			平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)	
財源内訳	国庫支出金	(千円)	0	0	0	0	
	県支出金	(千円)	0	0	0	0	
	地方債	(千円)	0	0	0	0	
	その他	(千円)	0	0	0	0	
	一般財源	(千円)	6,875	1,447	1,583	0	
事業費計		(千円)	6,875	1,447	1,583	0	
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	1.00	1.00			
		時間外勤務 (時間)	260.34	333.55			
	臨時職員等	(有無)	無	無			
人件費		(千円)	7,704	7,604			
事業コスト		(千円)	14,579	9,051			

R02年度当初積算根拠	①市内大学・研究機関等との連携事業 1,583千円 市内各大学・研究機関のそれぞれの特徴を生かしながら、連携事業を実施することで、「科学の街つくば」としての街の魅力を創出する。 積算根拠： ・研究機関等のアウトリーチ活動支援：展示用消耗品45千円 ・科学の街情報発信：横断幕99千円、PRバナー95千円、パンフレット印刷500千円 ・筑波研究学園都市交流協議会事務局業務：年会費200千円、OA用消耗品10千円、情報通信料84千円 ・つくばサイエンスアカデミー：負担金550千円						

予算の方向性	理由
維持	

方向性	
市民ニーズ	3 今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み	
進捗状況	4 計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか	
市の関与	2 今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について	
優先度	2 継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか	

	指標の概要							
3	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移						
項目			平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円)	0	5,993	4,150	0
	県支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	その他	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	14,070	11,932	8,409	0
事業費計		(千円)	14,070	17,925	12,559	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	1.50	1.00		
		時間外勤務 (時間)	260.34	339.15		
	臨時職員等	(有無)	無	無		
人件費		(千円)	11,233	7,618		
事業コスト		(千円)	25,303	25,543		

R02年度当初積算根拠

②次代を担う人材育成と科学技術の理解の醸成事業 12,559千円
 大学・研究機関等の集積を生かし、科学技術関連イベントを招致・開催すること等を通じて、次代を担う人材育成や一般市民の科学技術に対する理解醸成を図る。

積算根拠：
 ・つくば科学教育マイスター：謝礼96千円、参加記念品（マイスター用）15千円、副賞100千円、参加記念品168千円、チラシ32千円、マイスターポスター13千円、駐車場使用料9千円
 ・パンフレット送料20千円
 ・体験型科学教育事業：体験型科学教育事業8,300千円
 ・事業負担金：つくば奨励賞2,000千円、日本情報オリンピック700千円、科学の甲子園1,000千円
 ・各種打合せ：普通旅費106千円

予算の方向性	理由
維持	

方向性		
市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	3	法令等により、市の実施が定められている。
行政が関与する必要性について		
優先度	3	他の事業に優先して進める必要がある。
事業の優先度はどうか		

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報									
事務事業名	990 生活支援ロボット普及促進事業								
戦略プラン	IV	2	1	科学技術の振興	担当部課 係名	政策イノベーション部科学技術振興課 イノベーション推進係			
総合戦略	I	1	(1)	科学技術の振興によるまちづくり	新規・継続	継続			
						事業分類	任意的事務		
予算科目	01-020113-11 生活支援ロボット普及促進に要する経								
要求区分	既存事業	事業期間	平成27年度～						
個別計画					市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解			
						<input type="checkbox"/> 企画・立案、計画			
						<input type="checkbox"/> 実行			
						<input type="checkbox"/> 評価・検証			
根拠法令					事業体制	職員のみ			
					市長公約				
概要									
事業の目的					事業の概要				
<p>生活支援ロボットの効果を体験できる機会を提供することにより、生活支援ロボットの普及促進を図り、市民生活の向上及び地域経済の活性化、つくば国際戦略総合特別区域計画に係る取組及びロボットの街つくばの推進に寄与する。</p> <p>AI、IoTや自動運転等の近未来技術や科学技術研究の成果等、最新の知見等を活用した製品・サービスの社会実装、試用機会を提供することにより、健康寿命の延伸や、移動革命の実現等、様々な社会課題の解決及び地域活性化に資する。</p>					<ul style="list-style-type: none"> 各ロボット企業と市の共同事業により、ロボットの導入を検討している市内事業者に対し、効果の体験や一定期間の試用及び導入効果を検証する機会を提供することで、市内への生活支援ロボットの普及を促進する。 市内事業所等に近未来技術等社会実装事業、Society 5.0 支援事業等の取組により市場投入された製品・サービスへのPR支援・体験イベントの開催及び導入支援を行い、市内への近未来技術等の社会実装の加速化を推進する。 				
評価									
事業計画					活動実績				
<ul style="list-style-type: none"> 生活支援ロボット普及促進事業 <ul style="list-style-type: none"> 4月 各ロボット企業と協定書締結 通年 広報紙、HP等への掲載、関係機関等への周知活動 近未来技術等社会実装加速化推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 4月 新規要項の制定 6月 各企業等と協定書締結 10～12月 ニーズ調査 2月PR、体験イベントの開催 通年 共同事業者及び試用等事業者獲得のため、関係機関等への周知活動 					<ul style="list-style-type: none"> 生活支援ロボット普及促進事業 <ul style="list-style-type: none"> 4月 今年度要項の制定、各企業等と協定締結 5月 パロ体験会開催 8月 広報紙掲載 通年 HP等への掲載、関係機関等への周知活動 近未来技術等社会実装加速化推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 4月 新規要項の制定 6月・10月 各企業等と協定締結 10月 産業フェアにて事業周知 11月 広報紙掲載 2月 HALFIT体験会 2～3月 ニーズ調査 通年 関係機関等への周知活動 				
成果					課題				
<p>事業PRとして、広報紙やHPへの掲載や各協定締結企業等とともに関係機関へ周知活動を行うことで、市内事業者や市民等に各製品やサービスの試用機会を提供した。また、ニーズ調査により、各製品等の導入のための課題や近未来技術等に意識の高い事業者を発掘することができ、今後の事業運営の参考となるデータを取得できた。</p>					<p>試用者及び本格導入者を増加させるとともに、試用者等の実態に見合ったロボットの使用方法の検討が必要である。</p>				
改善目標（R02年度にむけて）									
各協定締結企業等とともに周知方法を検討していく。また、ニーズ調査の結果をもとに、意識の高い事業者等にヒアリング等を行い試用を喚起するとともに、導入に向けた手法等を検討する。									
指標の推移									
1	指標名	製品、サービス等の試用件数 (件)					成果指標		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	54.0	114.0	
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	
	指標の概要	事業者が生活支援ロボットや近未来技術の製品、サービス等を利用した件数							
2	指標名	新規就職者数 (人)					成果指標		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0	
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	

	指標の概要	つくば市における近未来技術を実用化したベンチャー企業への新規就職者数（※地方創生推進交付金と同様）						
3	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移						
項目			平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円)	0	789	6,533	0
	県支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	その他	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	0	831	6,533	0
事業費計		(千円)	0	1,620	13,066	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	0.00	0.40		
		時間外勤務 (時間)	0.00	86.39		
	臨時職員等	(有無)	無	無		
人件費		(千円)	0	2,927		
事業コスト		(千円)	0	4,547		

R02年度当初積算根拠	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援ロボット普及促進事業 負担金 4,927千円 近未来技術等社会実装事業 負担金 4,999千円 ニーズ調査・PR支援等委託 3,140千円 					

予算の方向性	理由	負担金の実績を踏まえ、予算を縮小したため
縮小		

方向性		
市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	2	計画から遅れている。(未達成)
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	3	法令等により、市の実施が定められている。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		

	指標の概要							
3	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移						
項目			平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円)	0	0	0	0
	県支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	その他	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	9,390	7,980	9,954	0
事業費計		(千円)	9,390	7,980	9,954	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	1.50	1.50		
		時間外勤務 (時間)	375.00	300.00		
	臨時職員等	(有無)	有	有		
人件費		(千円)	11,517	10,914		
事業コスト		(千円)	20,907	18,894		

R02年度当初積算根拠	①つくばスマートシティモデル事業 合計 3,382千円 ・普通旅費 355千円 ・消耗品費 17千円 ・飲み物代 10千円 ・スマートシティ協議会負担金 3,000千円
	②モビリティロボット実証実験推進事業 合計 1,074千円 ・備品修繕料 482千円 ・自賠責保険料 81千円 ・任意保険料 120千円 ・インストラクター講習会受講料 176千円 ・インストラクター更新料 165千円 ・協議会会費 50千円
	③つくばチャレンジ 合計 5,498千円 ・顧問報酬 480千円 ・費用弁償 18千円 ・大会補助金 5,000千円

予算の方向性	理由	各経費の精査及びつくばモビリティロボット実証実験協議会負担金の計上見送りによるもの (但し、スマートシティ協議会負担金については増額)
縮小		

方向性		
市民ニーズ	5	十分に高く、今後も増加が見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		